

視点

遊びを物語として 共有することの意味

名古屋市立大学 大学院人間文化研究科
教授 上田敏丈



現在、保育を論じる多くの論文や行政文書において「保育の質の向上」という言葉が用いられています。アメリカにおいて、1970年代に登場した「保育の質（Quality of Day Care）」という文言は、1990年代以後、多様化する保育ニーズへ対応する保育政策転換の中で、頻繁に使われるようになってきました（金田利子 他，2000）。保育を語る上で、枕詞のように使われるようになった「保育の質」は、中でも「構造の質」「プロセスの質」という視点が重要視されるようになってきています。この流れの中で、欧米諸国と比較して、一人あたりの保育者がみる子どもの数などの配置基準の問題が浮き彫りにされるなど、「保育の質」という言葉はまさに「保育の質」の向上に寄与してきています。

しかし、このような「保育の質」言説が普遍化していることに対して、異なる視点を提起したのがピーター・モスです。モスは、「保育の質」言説が、保育の営みを工場的視点で捉えていることを指摘し、質の高い-低いという視点でのみ、保育を語ることに對して異議を唱えました（Dahlberg 他，2022）。モスによると、「保育の質を超え」るためには、それぞれの保育者が日々の保育実践に對しての取り組みを問い直し、倫理的実践として価値観を提示することが重要であるといえます。

モスの述べる「倫理的実践」としての保育を共有することは、実践それ自体を物語のように語ることが重要であり、秋田喜代美（2020）によって、「保育の物語り」として紹介されています。

では、保育実践を「物語」として共有するとはどういうことでしょうか？

「物語」とは、「2つ以上の出来事をむすびつけて筋立てる行為」であり、「静的な構造や形態としての筋ではなく、語りがたえずつくり替えられるライヴ（生きた）生成プロセス」のことです（山田洋子 他，2000）。近年、海外の実践記録が日本にも紹介され、ラーニングストーリーやドキュメン

テーションなどの記録方法が広まってきていますが、形だけこれらの記録方法を用いるだけではなく、その中に、生きた子どもの姿が現れてくることが重要なのです。日々の保育実践を、多様な保育記録の中で、生きた子どもの姿（遊びや学び、育ちなど）として生成されること、それを保育者、保護者、子どもとともに共有することで、保育実践に對する保育者の「実感」が生起し、保育実践に對する肯定的循環を生み出していくことに繋がるのではないのでしょうか。

保育実践を「物語」として園内研修や園外研修で、共有するという場を作り上げることで、保育者が、保育への「実感」を伴い、次の日の保育をどうしようか、何ができるのか、ということにつながり、それが「保育の質」を向上させることになるのです。

「保育の質を超えて」いく議論の中で、「物語（物語り）」は魅力的なキーワードであり、個々の政治的・倫理的保育実践を展開していくことの意義を見いだすことができるでしょう。保育実践を「物語り」、共有することで、新しい発見や探究が生まれてくるのではないのでしょうか。同時に、この循環を生み出すことが、「保育の質」を超えていくことに繋がるのです。

しかしながら、このような魅力的なキーワードは、単に「保育の質」の代替として使われるべきものではありません。二項対立の論理を超え、安易・平易な物語とならないよう、また、単に物語の消費とならないようにすることが肝要です。

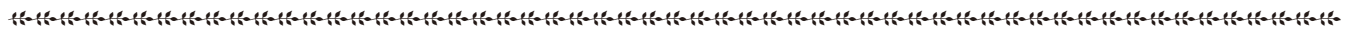
引用文献

金田利子他（2000）．「保育の質」の探究：「保育者-子ども関係」を基軸として．ミネルヴァ書房．

Dahlberg Gunilla 他（2022）．「保育の質」を超えて：「評価」のオルタナティブを探る．ミネルヴァ書房．

秋田喜代美（2020）．日本の新たな保育の物語りへの展望．発達，41（162），53-58．Retrieved from <https://cir.nii.ac.jp/crid/1522543654964914048>．

山田洋子他（2000）．人生を物語る：生成のライフストーリー．ミネルヴァ書房．



園運営の在り方②

全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道

園運営の在り方を考える時、最も大きな影響を及ぼすのは周囲の人口です。先日、全日本私立幼稚園連合会の設置者・園長全国研修大会で伺った話ですが、山形県のある市で昨年の出生数が43人だったらしいです。その市では小中学校を一つに統合して運営を始めているという話でした。全市に一つの小学校といっても43人では2学級しかできません。その街の子どもは、全て知り合いにはなれるでしょうが、クラス替えも大きな成果を得ることはできません。周囲の人口がそれだけになってしまうと市の機能自体が失われていきます。その市には私立幼稚園由来の認定こども園が1園、保育所が6園と伺ったと記憶しています。全ての施設が存続していくことは不可能です。どう考えても幼稚園1園、保育所1園の運営体制になっていかざるを得ないと思っています。

ただ、その時に、従来市行政とは縁の薄かった認定こども園よりも、市行政の意向に沿った運営をしている保育所が残されてしまったら、その街の親の選択肢は狭められてしまいます。私は多様な価値観のある教育機関が存在し、親が自分の子育てに対する価値を共有できる施設に子どもを委ねることができる仕組みが必要だと考えています。その街の私立幼稚園はすでに認定こども園として運営されています。従来の県管轄運営から、市行政の枠の中に入って運営されています。そのような背景の中で、その認定こども園はすでに保育所と同等かそれ以上の機能を保護者に提供されています。幼稚園は子どもを教育する場所、保育所は親の就労を支援する施設といった、従来の価値観での区別はもう存在していま

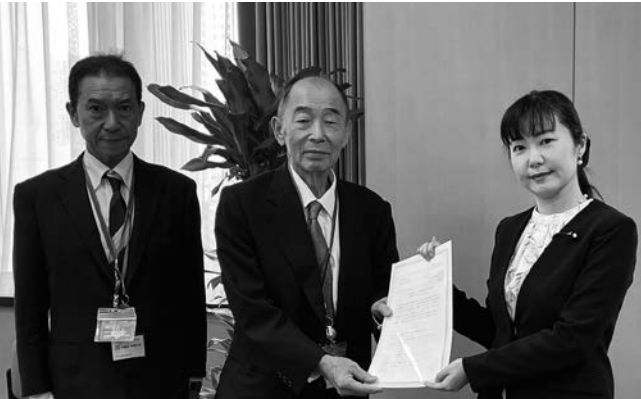
せん。すでに同じ機能を有して競争されています。自分の園での教育の良さを発信し、どのような規模になったとしても地域の住民の指示を確保し、運営に努力されている姿に敬意を表します。

私は、私立幼稚園・認定こども園として、それぞれの園が特色を生かして運営するには30万人程度の周辺人口が必要だと考えています。その規模の周辺人口があれば、園運営に同じ機能を求めるのではなくそれぞれの園が異なった機能を競争する仕組みが有効だと考えています。“私の園の運営にはどのような特色を持つか”といった発想で考えていくことが園を残す最大の武器になると考えています。ただ、周辺人口がそれ以下だと、異なる機能を有して競争するという原理が働きません。保育所と同等かそれ以上の機能を有して競争することが求められません。そのような場所で必要となる考え方は、子どもが育つという視点で、どのような子どもを育てたいのか、どのような子どもを育てるために園はどのような努力をしているのかを地域の人に伝えていくことが必要です。親の就労支援ではなく、子どもが育つという視点で発信していく努力が必要だと考えています。

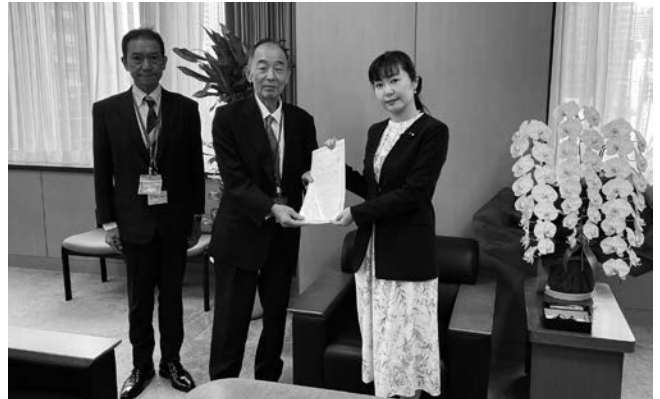
全日本私立幼稚園連合会の振興活動【1】～加藤鮎子内閣府特命大臣へ表敬訪問～

● 10.10 加藤鮎子内閣府特命担当大臣へ表敬訪問

去る10月10日（月）に、新たに就任した加藤鮎子内閣府特命担当大臣を、田中雅道会長および内野光裕副会長が表敬訪問いたしました。



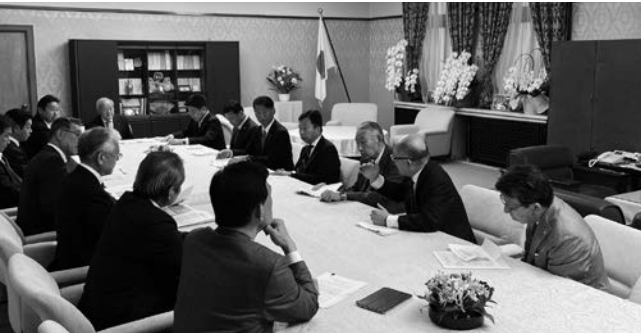
左から内野副会長、田中会長、加藤内閣府特命担当大臣



全日本私立幼稚園連合会の振興活動【2】～自民党・学校施設耐震化議連総会～

● 10.17 自由民主党・学校施設耐震化議連総会の開催並びに財務相、文科相への申し入れ

去る10月12日（木）に衆議院議員会館にて学校施設耐震化議連総会が行われ、政府への要望書が取りまとめられました。その後、10月17日（火）に鈴木俊一財務大臣ならびに盛山正仁文部科学大臣へ、尾上正史副会長が耐震化議連の先生方と申し入れを行いました。



全日本私立幼稚園連合会の振興活動【3】～自民党「予算・税制等に関する政策懇談会」～

● 11.6 自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」

去る11月6日（月）、自由民主党本部にて「予算・税制等に関する政策懇談会」が開催され、教育関係団体からのヒアリングが行われました。本連合会からは田中雅道会長が出席し、出席議員に対し、次頁の要望書を提出するとともに、「労働政策」としての少子化対策ではなく、幼児教育に視点を置いた少子化対策の展開を要望しました。



令和5年11月

自由民主党

組織運動本部 教育・文化・スポーツ関係団体委員長

井原 巧 様

政務調査会 文部科学部会長

山田 賢司 様

令和6年度私立幼稚園関係予算の編成に関する要望

全日本私立幼稚園連合会
会長 田中 雅道



幼児教育の重要性を十分に踏まえた振興策の充実は、我々私立幼稚園・認定こども園の永遠の願いであり、すべての子どもが良質な幼児教育を受けられるよう制度を整備するとともに、すべての施設が良質な幼児教育環境を提供できるよう努力していく事が重要であり、そのためにも、特に以下の点に重点を置いた施策を推進していただきたい。

- ① すべての子どもが良質な幼児教育を受けられるよう、幼児教育の質の向上や、それを支える人材の充実、安全・安心な教育環境の整備を実現いただきたい。
自治体においては義務教育など教育制度全体との連続性・一貫性を確保した上で幼児教育の推進体制を強化していただきたい。併せて、自治体や小学校に対して、幼児教育との接続・連携の重要性を啓発するとともに、幼児教育の質の向上に係る研究を推進するなど国として具体的な取組みを充実していただきたい。
- ② 幼稚園・認定こども園に勤務する全ての教員等が、やりがいをもって子どもたちに接することができるよう、園の設置形態や私学助成・施設型給付の別にかかわらず、引き続き処遇を改善していただきたい。
- ③ これまでも幼稚園・認定こども園は地域における幼児教育の拠点かつ全ての子育て家庭に開放された社会的な居場所として幅広い子育て支援活動を行ってきた。引き続き幼稚園がそのような役割を果たし、今後実施される「こども誰でも通園制度」における未就園児の受け皿としても機能するために、人材確保や環境整備、質の高い預かり保育に係る内容面の充実及び周知啓発等、子育て支援活動の質・量両面に係る支援をお願いしたい。
- ④ 認定こども園への移行を希望する私立幼稚園が円滑に移行できるよう、市町村は積極的に支援いただきたい。併せて、国としても移行に係る手続き等の業務負担を軽減するために事務費を充実いただきたい。
- ⑤ 教育費の負担軽減制度は『重要な子育ての支援策』であり『少子化対策』の役割も担っています。現在月額 25,700 円（年額 308,400 円）を保護者に補助していただいておりますが、昨今の急激な物価上昇や、幼稚園児の保護者は若年層世代であることを踏まえ、単価の引き上げをお願いしたい。

以上を踏まえ、令和6年度予算の詳細な要望事項は、次のとおりです。

I 私立高等学校等経常費助成費補助制度（幼稚園分）の拡充等

1. 私立高等学校等経常費助成費補助制度（一般補助）（幼稚園分）の充実
2. 幼稚園教員の人材確保支援（処遇改善）の拡充
3. 幼稚園における未就園児を対象とした子育て支援活動を更に強化するため、教育改革推進特別経費（子育て支援推進経費）の拡充
4. 私立高等学校等経常費助成費補助制度（幼稚園特別支援教育経費）に係る交付要件の緩和及び単価の増額
5. 無償化に伴う私学助成園の事務負担の増に対する事務処理体制の整備のための、継続的な財政支援及び広域利用が多い幼稚園と市区町村との間の事務負担の軽減

II 子ども・子育て支援新制度

1. 公定価格の基本単価の改善（出生数の減少等による園児減への対応及び2号・3号児も合わせた減収への対応）
2. 公定価格における幼児教育の質向上に係る加算の拡充（小学校接続加算、処遇改善等加算、主幹教諭等専任加算等の見直し）
3. 質の高い教育・保育に取り組む園が体制を維持できる形での4・5歳児を担当する職員配置基準の改善
4. 地域の人材流出防止のための地域区分の見直し
5. 認定こども園における市町村外の2号・3号児の受け入れ緩和による広域通園の実現
6. 一時預かり事業（幼稚園型Ⅰ）事務職員配置加算における小規模保育等との連携要件見直し、専任職員の増
7. 新制度に関する市町村への申請手続きに関する事務量の軽減の実現
8. キャリアアップ研修における研修実施主体の認定促進

III 幼児教育の質の向上・多様な課題に対応する園内体制・施設整備の支援

1. 大学等と一丸となった幼児教育における質の高い人材の確保及び定着に向けた支援
2. 公開保育を活用した幼児教育の質向上システム(ECEQ)等も活用した幼児教育推進体制整備
3. 一種免許状への上進に伴う教員の処遇改善
4. 多様な課題に対応する園内体制の整備支援（保育定数の引き下げ等による教員の負担軽減及び質の向上、被災した子どもや家族の心のケアの担い手育成など）
5. 「こども誰でも通園制度」の本格実施を見据えて希望する園が広く活用できるようなモデル事業の大幅拡充、0～2歳を預かるための施設設備整備や人材確保に係るハード面での支援強化や、適切な教育・保育活動内容の周知啓発などソフト面での支援
6. 幼児教育の質を支える私立幼稚園施設整備費補助金の充実及びこども家庭庁に移管された認定こども園部分の現状制度への配慮
7. 教育支援体制整備事業費交付金における幼児教育の根幹となる遊具等の整備支援や、認定こども園への移行支援に係る事務費の拡充
8. 教育の質の向上に必要な調査研究（幼児小架け橋プログラム、幼児教育に関する大規模縦断調査、幼児教育施設における教育の質を保障するための第三者評価の導入に関する調査研究等）の実施
9. ICT環境の整備等による幼稚園教諭の業務負担軽減に関する支援

以上

こども誰でも通園制度（仮称）等を協議

10月6日（金）、オンライン形式にて団体長会が開催され、56人が出席しました。

はじめに、尾上正史副会長から開会のことばがあり、引き続き、田中雅道会長からあいさつがありました。

その後、議題に入り、議長に松岡明範氏（愛知県）が選出され、議事録署名人に大森けい子氏（長野県）、加納顕氏（岐阜県）が選出されました。

■協議案件 こども誰でも通園制度（仮称）の件

「こども誰でも通園制度（仮称）の本格実施を見据えた試行的事業実施の在り方に関する検討会」について、内野光裕副会長より説明と報告があり、さらに協議を重ねていくべき課題として活発な意見交換が行われました。

■報告案件（1）横領事件に関する現状の報告

前事務局長の刑事裁判が結審したことにより、本件を担当する弁護士からこれまでの経緯ならびに今後の民事裁判への対応について説明・報告があり、その後、質疑応答を行いました。

■報告案件（2）各委員会からの報告

会務運営について、各委員会委員長から報告がありました。



■報告案件（3）（一財）全日私幼研究機構からの報告

高尾恵子調査広報委員長より機構のホームページリニューアルの報告がありました。

■報告案件（4）監事監査報告の件

7月26日付監査会について、各監事より報告がありました。

最後に、畠山一雄監事が監事所感を行い、角谷正雄副会長から閉会のことばが述べられ、終了となりました。

（総務委員長・福井徹人）

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

令和5年度 地区教研大会概要

関東・神奈川地区 教員研修大会

群馬県・高崎市／8月9日・10日

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

去る8月9日・10日に群馬県のGメッセ群馬において第36回全日私幼関東地区教員研修群馬大会が開催されました。関東地区ではオリンピックやコロナの影響で純然たる集合形式の大会は4年ぶりでありましたので、WEB研修に慣れてしまった参加者たちの研修に対する熱量が冷めていたりはないかと心配しておりましたが、1100名を超える大勢の方がGメッセ群馬に集結しました。令和2年に完成したばかりの新たなコンベンションセンターを使用して開催したいという開催県群馬の思いが、会場に見合う多数の参加者数のおかげで実を結んだ形となりました。

開会式前のオープニングアトラクションでは、東京農業大学第二高等学校の吹奏楽部による華やかなマーチングを披露していただき、更には吹奏楽の伴奏に合わせて参加者全員による「幼稚園賛歌」の歌声が会場全体に響き渡りました。

基調講演には脳科学者の茂木健一郎氏をお招きし「のびやかに生きる」と題してご講演いただきました。子どもがいきいきと自分らしく成長するためには、自分の個性を丸ごと受け入れて見守って後押ししてくれる環境すなわち「安全基地」が何より大切であるという内容に多くの参加者が共感させられました。1日目の終了後には、オプションとして群馬県伝統工芸品である高崎だるまの絵付け体験も実施しました。講師の先生からは「さすが幼稚園の先生。プロが絵付けをしたような素晴らしいだるまがたくさん出来ました」との言葉をいただきました。

【2日目】

各県が担当する8つの一般フォーラムは、割り振られた（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研究課題に従い、関東地区・神奈川地区8県の問題提起者による発表をもとにしたグループ協議やゲストによる助言をいただくことで、参加者は

深い学びができました。久しぶりの対面でのディスカッションを待ちわびていたかのように、どのフォーラムもグループ協議の時間はたいへん盛り上がっていたようです。8つの各県フォーラムの他に、群馬県が担当する特別フォーラムとして、①設置者・園長フォーラム「映画“夢見る小学校”から考える」②乳児保育 ③実技講座④尾瀬ヶ原で保育の心を磨く ⑤SUP ON 四万ブルーと四万温泉 を実施しました。

設置者・園長フォーラムでは、映画「夢見る小学校」を視聴後にオオタヴィン監督から映画に込めた思いや製作秘話を伺い、児童たちがいきいきと過ごす「夢見る小学校」から我々幼稚園が学べることを語り合いました。また教養文化のフォーラムとして、群馬県の自然を感じていただきながら保育の心に繋げていただくとう企画した尾瀬ヶ原散策と四万湖でのSUP体験も好天に恵まれ、2学期にむけて気分をリフレッシュしながら保育の心に繋げるという当初の目的を十分に達成できました。

幼稚園ナビを駆使しながら、「参加受付票のQRコードをタブレット画面にかざす」という当日の受付作業も予想以上にスムーズに行うことができました。1100人を超える参加者の申込や出席確認業務に幼稚園ナビ機能を利用したことで、事務局の負担もかなり軽減することができました。

最後になりましたが、群馬大会へご参加の先生、ご協力いただきましたフォーラム関係者・運営委員・各県の事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。幼稚園の先生方の研修に向かう幼児教育への熱い姿勢は決して失われていないという実感を胸に、次年度の栃木大会へバトンを渡したいと思います。

((一社)群馬県私立幼稚園・認定こども園協会 副会長、太田市・認定こども園金山幼稚園／森下 幸夫)

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

「避難せよ！避難せよ！！」けたたましいサイレンと避難指示が鳴り響く中、お迎えを待つ園児と寄り添って不安な時を過ごしたことを思い出します。鳥取市に台風7号が上陸したのが8月15日。折しも中国大会の6日前でした。テレビでは甚大な被害を受けた地域の様子が繰り返し流されるので、不安もおおられます。「中国大会、できるだろうか…」そんな心配が頭をよぎりました。コロナ禍により、今まで紡がれてきた伝統と学びの場が「リモート形式」に形を変えてから早4年。5月に「5類感染症」に移行され、対面式で実施されることが決まってから準備スタッフは、それっ！とばかりに準備に拍車をかけていました。そんな気運に影を落とすような台風襲来。そんな時です。「鳥取は大丈夫ですか？」「園に被害はないですか？」などなど、お見舞いと激励の声が事務局に相次ぎました。幸い、会場となる鳥取市街地と加盟園に目立った被害が認められなかったことから予定通り開催できることに。「鳥取は元気です！！」と、声高らかに伝え、仲間（中国5県の加盟園の皆さま）の声を励みに一歩下がって二歩進む大会までのプロローグでした。

中国地区の研修大会は、研究発表の年と、開催県の地域資源を活用して学ぶフィールドワーク型ワークショップの年を交互に取り入れます。今年は研究発表の年でした。

■全大会（一日目）

開会式では、功労者表彰、永年勤続者表彰の後、ご来賓の方々から祝辞をいただきました。

* 記念講演

西川ピアノ調律師の西川昌孝氏による「ピアノと音の仕組み～子どもたちにとって必要なこととは」では、普段見ることのないピアノの解体と内部様子を見せていただきました。

* 基調講演

上越教育大学教授の山口美和氏による「自然と豊かなかわりかもたらす子どもの育ち」では、現代社会の深刻な「自然離れ」とそれが及ぼす影響、

また、自然と関わる経験を保障するための実践例について豊富なデータを基にお話しくございました。

■分科会（二日目）

* 第1分科会

「特別な配慮を必要とする幼児理解と教育・保育～つながる・つなげる支援の取り組み～」(鳥取県)

* 第2分科会 「小学校への滑らかな接続」に向けて～はじめの一步～(岡山県)

* 第3分科会

「私がつくる？子どもがつくる？子どもと私がつくる園生活」(広島県)

* 第4分科会

「子どもたちと共に育つ保育者をめざして」(山口県)

* 第5分科会

「互いに学び合う、縦割りクラスでの一人ひとりの育ち」(島根県)

第1～5分科会では、発表園の研鑽が積まれた実践内容に敬服するばかりでした。参加者は、「自園で参考にしたい」と、どこか姿勢も「前のめり」になって受講する様子が見られ、あちらこちらから感嘆の声が上がりました。

* 第6分科会（設置者・園長・ネクストリーダー研修会）

ゆびすい労務センター代表 平幸次氏による「ここまで変わった労務管理～選ばれる園への処世術とは～」では、参加者と園の未来について考えながら、最新法改正について、また、職員養成のノウハウについて教えていただきました。

参加者426人が一堂に会して行われた研修会。もちろんリモート形式の良さもありますが、共に乳幼児の教育・保育に携わる仲間が顔を合わせ、意見を交わし、明日のより良い保育のために力を注ぐ決意を新たにします。そのような機会はかけがえのないものだと思えて感じた研修会でした。

(鳥取県私立幼稚園・認定こども園協会、中国大会実行委員、鳥取市・認定こども園稲葉幼稚園・稲葉保育園／岡美智子)

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

令和5年8月3日と4日の二日間にわたり、第37回四国地区教育研究大会香川大会が、高松市のJRホテルクレメント高松で開催されました。コロナ禍を経て4年ぶりに対面での開催となり、四国4県から607名もの先生方が参加してくださいました。

新型コロナウイルス感染症の流行の動向が分からず、本当に対面研修が実現するのだろうか、オンライン研修にも慣れ実際に参加してくれる先生方がどれぐらいいるのだろうかと心配するなかで、四国地区の先生方には大変お世話になりましたことを、改めて感謝いたします。

開会式では、香川県知事や高松市長をはじめご来賓の皆様から、これからの幼児教育への期待と励ましのおことばをいただき、永年勤続表彰では9名の先生方が表彰されました。

開会式後の記念講演では学習院大学教授・東京大学名誉教授の秋田喜代美先生に「遊びこむ子どもの姿を育む：かけはし期に保障したい経験」という演題でご講演をいただきました。オンラインでの講演で、ネットワークが切れてしまうというハプニングもありましたが、無事終了いたしました。

子どもが遊びこむ保育環境について、子どもの経験から先生がどうとらえるかがカギであり、主体的・対話的で深い学びの過程にある様々な思考・体験がある環境を考えられる先生であることが、保育の質を考えるなかではとても大切であり、ますます多様性が尊重される教育の在り方が、これまで以上に求められるのではないかと。また、ドキュメンテーションの捉え方として、保護者との子育ての喜びの共有だけにはとどまらず、保育者間または子どもたちとの対話から深い学びが生まれ、学びの可能性が広がることを感じ、令和の幼児教育はこども家庭庁の発

足、こども基本法の制定により、こどもがまんなか社会の実現に向けて社会全体を巻き込んで大きくかじを取り始めたことを、具体的に知ることができました。

6つの分科会では1日目に提案発表と質問を受け付け、2日目に質疑応答と協議の柱に添ってのグループ協議が行われました。久しぶりの対面での協議に、どの分科会も熱のこもった意見交換が活発に行われ、先生方自身がアクティブラーニングのなかから大きな学びを得ることができました。

設置者・園長部会では文科省初等中等教育局幼児教育課の渡部剛土課長補佐より「こども家庭庁の発足と文部科学省との連携」という演題でご講演いただき、文科省およびこども家庭庁の子育て支援についての話を伺った後、「3歳未満在宅児に対する誰でも通園制度」「厳しい少子化に伴う園児急減時代の幼稚園経営への不安」という、今まさに私たちが直面している重要課題についてグループ討議を行いました。

討議では、設置者・園長ならではの本音の話も聞かれ、今後の子育て支援について私立幼稚園としてできること、すべきことについて意見を出し合ったり、情報交換を行ったりすることができました。

1日目終了後の懇親会では、各テーブルから和やかな談笑の声が聞こえており、研修だけでは得られない実のある交流が行われました。

最後になりましたが、今年度は会場スクリーンのQRコードを各自で読み取る受付を行いました。大きな混乱もなく出席の確認ができました。ありがとうございました。

(香川県私立幼稚園連盟研究委員長、高松市・高松聖母幼稚園／湖崎由香)

大会テーマ 「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

令和5年8月3日(木)～4日(金)に、九州各県から1,112名(対面・オンライン)の参加者をお迎えして、「令和5年度全日本私立幼稚園連合会九州地区会第39回教師研修大会大分大会」を開催しました。

九州地区では近年、教師研修大会はオンラインで開催されていましたが、各地の先生方が集う場を少しでも作りたいと考え、可能な範囲で対面方式を導入させていただきました。初日は、会場に約300人の方をお迎えし開会式・講演を行い、二日目は、各県の発表者達に会場までお越しいただき、大分からオンライン発信をしたところです。

初日は、開会式に引き続き、記念講演と基調講演を行いました。

記念講演は、絵本作家の長谷川義史先生に、「絵本で子どもたちにつたえたいこと」というテーマで絵本ライブをしていただきました。

長谷川先生のライブを拝聴し、研修に参加の皆様が、改めて絵本のすばらしさを実感したと思います。先生の優しい語りと素敵なウクレレの音とともに、絵本の世界に引き込まれていました。先生のたくさんの絵本にふれることで、心から笑い、いつの間にか満足感と幸福感に包まれているように感じました。家族の愛情や温かさ、素敵な詩から穏やかな気持ちになりながら平和について考えることなど、たくさんの学びの時間をいただきました。その気持ちを子どもたちにも伝えていきたいと思うような実りある講演でした。

基調講演は、西南学院大学の門田理世先生に、「OECD Education2030における保育学の位置づけ」という演題でお話しいただきました。

門田理世先生は、国際的な観点から乳幼児教育に取り組まれています。「どのような社会で生きていきたいですか」、「その社会を実現するためにはどうしたらよいですか」を考えるよい機会になったと思

います。「OECD Education」とは、全ての子どもたちと共に未来志向の教育を考えることだと知りました。子どもたちが行動させられるのではなく、自ら行動できるような保育をしていくこと。やってみたい(共感)・やってみよう(興味関心・企画力)・もっとやってみたい(好奇心)と、保育者も子どもと共に考え学んでいくことを大切にしていきたいと思えます。心を動かし、子どもが自ら行動し経験しける環境を共に作っていきたく考える良い時間となりました。

2日目は、オンラインのみでしたが、発信は大分からさせていただきました。

第1分科会～第12分科会では、九州各県の担当園より、主題・テーマを決め、「研究内容・方法」、「研究の結果」、「今後の課題」について発表していただきました。各分科会会場では助言者・司会者・問題提起者・記録者・大分県教育研究委員の担当者、ほか多くの実行委員会の皆さんで協力しオンライン発信をしました。

設置者、園長向け分科会では、前日に引き続き門田理世先生に、「保育学から考える幼児教育・保育の重要性」について、お話しいただきました。

どの分科会においても、各県の参加の皆さんと話し合う良い研修の場となりました。これからも子どもたちと教職員の幅広い研修の時間を重ねていきたいと思えます。

今回の大会におきましては、関係者の方々のおかげで、無事に開催することができました。ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。来年の佐賀県での再会を楽しみにしています。

(大分県私立幼稚園連合会 教育研究委員会副委員長、別府市・認定こども園ひめやま幼稚園／伊藤由美子)



受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

ご利用には一定の要件があります。詳細については、「受配者指定寄付金事務の手引」をご覧ください。

参照：私学事業団ホームページ[助成業務のご案内]▶受配者指定寄付金▶受配者指定寄付金「寄付金事務の手引」

ご不明な点など、下記までお気軽にご相談ください。

日本私立学校振興・共済事業団
助成部 寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL 03-3230-7317 ~ 7318
e:mail kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL <https://www.shigaku.go.jp/>

受配者指定寄付金制度

をご活用ください

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

はじめてみませんか 寄付金募集

寄付募集の情報を掲載しませんか
私立学校寄付金ポータルサイト
<https://kifu-portal.shigaku.go.jp>

- ・園の特色や所在地など、寄付者の視点で情報を検索できるサイトです。
- ・掲載方法等は左記までお問い合わせください。



アクセスはこちら→

※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

令和5年12月号より、慶応義塾大学総合政策学部の中室牧子教授による年間連載を開始いたします。教育を経済学的手法で分析する「教育経済学」を専門としておられ、教育にも科学的な根拠が必要であることを解いておられます。多数のメディアにも出演実績のある中室教授の連載から、さらに幼児教育への理解を深めていただけますと幸いです。

第1回 なぜ、教育に科学的根拠が必要なのか

慶應義塾大学
総合政策学部教授 中室 牧子

慶應義塾大学総合政策学部の中室牧子と申します。教育経済学を専門にしています。この度、12回にわたって連載を担当することになりました。初回である第1回は、「なぜ、教育に科学的根拠が重要か」ということを説明したいと思います。

皆さんは日本代表として三度も五輪に出場した元陸上競技選手の為末大氏の「トップ選手の扁平足」というエッセイをご存じでしょうか。「扁平足」(へんぺいそく)とは、「土踏まず」がない足の形のことで、歩いたり走ったりするときに足への負担が大きいといわれています。しかし、北京五輪の銀メダリストでもある末續慎吾選手は「扁平足」だということです。このエッセイを読んだ私はすぐに、「実は、扁平足の人ほうが足が速いのか」と思いました。一流選手が扁平足だと聞けば、私と同じように思った人は多いのではないのでしょうか。

しかし、為末氏は次のように指摘します。

「足が速い人が扁平足だったという話と、扁平足であれば速いという話は違う」。そして、「天才が持ち合わせ

ていた特徴。いい結果が出た時に行われていたこと。それらは迷信になりやすい。」とも述べています。実は、オリンピックに出場した短距離走選手の多くは扁平足ではなく、末續選手が例外なのだそうです。偶然、いい結果が出た時に行われたことが迷信となり、社会全体に広がって、とんでもない結果を招いたことがあります。それは、1978年にアメリカで撮影され、アカデミー賞を受賞したドキュメンタリー映画「スケアード・ストレート」に端を発した、不良少年の更生プログラムです。

このドキュメンタリー映画の主人公は当時の不良少年グループで、撮影スタッフはこの不良少年たちを刑務所に連れて行きます。そこで刑務所に収監されている終身刑囚たちと約3時間の交流をさせるのです。これによって、少年たちが犯罪に関わるとどうなるのかという現実を思い知り、自ら更正するだろうという期待がありました。このドキュメンタリー映画のタイトルである「スケアード・ストレート」とは、怖がらせて(Scared)、更正させる(Straight)ことを意味しています。子どもたちを怖がらせて言うことを聞かせようとする教育は一般にもよく見られます。「早く寝ないとお化けがでるよ」

クラスや園のみんなで楽しめる
アプリがチャイルドブックから登場!

App Store からダウンロード Google Play で手に入れよう
ダウンロード無料

お誕生日会に 生活指導に 絵本の読み聞かせに
いっしょによむぞう

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格	1アカウント/月額プラン	5,500円(税込)
	1アカウント/年額プラン	55,000円(税込)

※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。

初回会員登録限定 **30日間無料体験実施中!** 対応OS iPad OS 14以降 Android 5.0以降

会員登録した日から30日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試ください。

iPadはこちら Androidはこちら

さあ、いっしょに手のひらのばいさんをやっつけよう!
じゃあ、このポーズは...クリア!
やったね! 次の、かめのポーズだよ。
画面の動きをまねしながら楽しく手洗い!

TEL 112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社

などというのもその一例でしょう。

その後、少年たちはどうなったのでしょうか。ドキュメンタリーは最初に撮影に参加した少年たちを追跡し続けました。そして、多くの少年たちが更生し、犯罪に関わることのない人生を送っていることを明らかにしたのです。このドキュメンタリーは、アメリカの社会全体に大きな影響を与えました。不良少年の更正プログラムとして「スケアード・ストレート」を採用する州政府が一気に増加したのです。

しかしこのことに疑問を持った研究者もいました。少年たちは、本当に「スケアード・ストレート」のおかげで更生したのだろうか——そう考えたラトガス大学のジェームズ・フィンケナウアー教授は、「スケアード・ストレート」に参加する少年と参加しない少年をランダムに分け、両方の少年たちのその後を追跡する研究を行いました。「スケアード・ストレート」の効果を厳密に計測しようとしたのです。

フィンケナウアー教授の研究は、驚くべきことを明らかにしました。なんと、「スケアード・ストレート」に参加しなかった少年たちよりも、参加した少年たちのほうが、のちに刑務所に収監された確率が高かったことがわかったのです。その後に行われた多くの研究も同様に「スケアード・ストレート」に参加した少年たちのほうが犯罪に関わる確率が高いことを示しました。

なぜこのような結果になったのでしょうか。思春期は、子どもたちの身体的・精神的成長が著しい時期です。私自身も中・高校生のときは、髪の毛を染めたり、ピアス

をしたり、校則で禁止されていることをわざわざやることに精を出していましたが、心身の成長とともに、馬鹿らしくなってやめてしまいました。このように年齢とともに分別がつくようになっていくのだとすれば、ドキュメンタリーの中で見られた少年たちの変化は、「スケアード・ストレート」が行われなかったとしても生じた変化に過ぎず、視聴者はそれを「スケアード・ストレート」の効果だと勘違いしてしまったということになります。

しかし、実際は、不良少年を受刑者と接触させると、更正のきっかけになるどころか、かえって犯罪に関わる確率を高めてしまっていたのです。これでは、州政府が、納税者から集めた税金を使って、犯罪者を増加させているという批判を免れません。ある研究者が行った推計によると、「スケアード・ストレート」を積極的に採用していた州の1つであるワシントン州がこの政策に用いた100円（1ドル）の税金は、後に約2万円（200ドル）もの追加的な税負担を生じさせてしまったということです。

「スケアード・ストレート」から学ぶべき教訓はあまりにも多いように感じられます。良かれと思って始めたことでも、それが安全だとか効果的であるという保証はどこにもありません。「スケアード・ストレート」以外にも、効果がないどころか、逆効果だった教育があることは、様々な研究で明らかにされています。

「その教育に効果はあるのか」

この問いに答えるためには、科学的に信頼できる検証が必要です。この連載では、幼児教育に関して明らかになっている科学的根拠をご紹介します。



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。

創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。

あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



JAKUETS

彩の絆・彩の宝

埼玉県には親しみや愛着を高めるために「彩の国さいたま」（さいのくに）という愛称があります。「彩の国」の彩は、いろどりや美しさを表す言葉で四季折々の色彩豊かな自然に恵まれ、産業、文化、学術など様々な分野で発展する多彩な国、埼玉県を表現しています。

この彩の国さいたまに因んで全埼玉私立幼稚園連合会では「彩宝塾」（さいほうじゅく）という次世代のための組織があります。彩宝塾は平成22年に全埼玉私立幼稚園連合会の前会長でもあった平原隆秀先生が初代塾長となり次世代の親睦や研修、情報交流の場を提供し埼玉県内の私立幼稚園等や連合会組織の未来を見据えて作られた組織です。初期の塾生達の多くは今現在、自園の園長や理事長となりリーダーシップを発揮し、連合会の理事や役員としても活躍し、組織の柱となっています。そして今、その絆をまた次の世代へとつないでいかなければと考えています。コロナ禍の4年余り活動を休止していた状態でありましたが、幼稚園・認定こども園において子どもの人口減少による園児数の確保の難しさや新任教諭採用の難しさ等、個人では解決できない問題を抱えています。今後の幼児教育を考えると、必要とされるのは彩宝塾のような組織です。子どもたちが未来の宝であるように幼児教育の未来を築くために、私たち全埼玉私立幼稚園連合会に関わる者として平原先生が残していかれた彩宝塾をさらに発展していきたいと考えています。

（全埼玉私立幼稚園連合会副会長、さいたま市・大宮みどりが丘幼稚園 / 佐藤緑郎）

「あの震災から12年。 移転再建して10年。 国内外の皆様からの ご支援に感謝 !!」

震災前私たちののびる幼稚園は、宮城県東松島市野蒜地区にあり近くに野蒜海岸がありました。松林を通り抜けるとのびる幼稚園の園舎が見えてくる、そんなのどかで自然豊かな中、園児たちはのびのびと園生活を送り、職員は日々の保育に従事しておりました。3月19日に予定していた第44回卒園式を目の前にその大自然が牙をむく事態が起きました。

平成23年3月11日（金）14時46分。私たちはあの日のことを決して忘れません。東日本を襲った地震と津波は甚大な被害をもたらし、かけがえのない多くのものを一瞬にして奪われました。のびる幼稚園も大津波に襲われ、園舎の外観は残ったものの窓ガラスは割れ松の木が刺さり1階は壊滅、2階も床上浸水の被害を受け、がれきや土石で見るも無残な状態でした。園舎のあった野蒜地区は危険区域に指定され、その場所に再建は出来なくなってしまい、保育を再開できる場所を探しながら、2年間民間の縫製会社の倉庫を間借りし、保育を続けました。

再建できる場所を探し矢本地区に新しい園舎が再建できたのは、平成26年4月の事でした。その間、その後も心温まるご支援を頂戴し、何とか再建にこぎつけました。お顔も存じない方々からの沢山のご支援に触れ、人のやさしさやつながり、そして絆の大切さを大事にしながら再建した10年。あっという間の月日でした。当園のために沢山のご支援を賜った方々、皆さんが心配してくれ、自分の事のように色々なご助言やご助力が私たちの再建への力になりました。ここで保育できる環境を整えて下さった方々への感謝の気持ちに伝えられるように前進してまいります。

（（一社）宮城県私立幼稚園連合会、東松島市のびる幼稚園 / 加藤秀幸）

ニュースのひろば

令和5年10月11日に以下の通りこども家庭庁から周知依頼がありましたのでお知らせします。

令和5年度「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」実施要綱

1. 名称

オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン

2. 趣旨

児童相談所の児童虐待相談対応件数は依然として増加傾向にあり、こどもの生命が奪われる重大な事件も後を絶たない。児童虐待の防止は社会全体で取り組むべき重要課題である。

こども家庭庁では、毎年11月を「秋のこどもまんなか月間」と定め、こども・子育てにやさしい社会づくりのための各種取組を行うが、その一つとして「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」を実施し、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、関係機関・団体等の協力を得て、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動など種々な取組を集中的に実施するものである。

3. 基本方針

- (1) 児童虐待問題への国民の理解の浸透及び児童虐待防止に向けた国民的意識の高揚・定着
- (2) 地域社会に根ざした児童虐待防止に向けた取組の促進
- (3) 児童虐待防止に向けた取組における関係団体、関係機関、地域住民等の連携強化

4. 標語

『あなたしか気づいてないかも そのサイン』

もりぞの 紗帆さん（愛知県）の作品

※ 全国公募により選定

5. 期間

令和5年11月1日（水）から30日（木）まで

※ 実情に応じ、期間延長等の変更可。

6. 主唱者

こども家庭庁

ホーネット 車内置き去り防止システム

カーセキュリティ機能付き車内置き去り防止システム

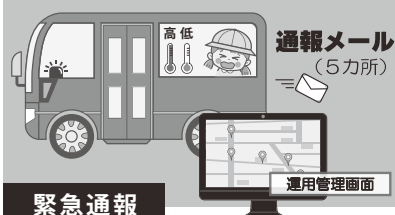
- エンジン停止後にブザーが鳴ります。
- 見回りながら後部に設置したリモコンボタンを押してブザーを止めます。

車内センサーが人の動きや振動を検知してアラームでお知らせ！



標準セット

車両の位置情報や移動履歴などをスマホやPCで管理できます。



緊急通報

アナログによる
ヒューマンエラー
防止

デジタルによる
見守り



株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11
ホームページ：<https://www.child.co.jp/>

編集後記

令和5年を振り返ると、5月に新型コロナウイルス感染症が「2類」から「5類」へ移行し、コロナ禍前の生活が戻ってきました。海外を含め自由に旅行ができるようになりましたが、特に9月以降感染者が少しずつ増えています。12月号が発行される頃にはどんな状況になっているのか心配です。また、この夏の異常な暑さで、各地で猛暑日の日数が更新されました。平均気温や海水温も最高記録を更新し、生態系への影響が懸念され

ています。秋刀魚は不漁ですが、さばの漁獲量が例年の20倍を超えたところがありました。生息地の北限が変わってきています。「異常気象」という言葉が使われますが、今後、毎年のことになれば「異常」ではなくなります。台風の数や山火事も増え、大きな被害が出ています。今さらではありますが、温暖化や気候変動を言葉として知っているだけでなく、もっと身近なものとしてしっかりと認識し行動しなければなりません。

(広報委員長・波岡伸郎)

今後の主な会合予定

◎会議

【令和5年】	11月17日(金)	団体長会	オンライン
	11月27日(月)	常任理事会	東京・私学会館
	12月15日(金)	団体長会・理事会合同会議	東京・私学会館
【令和6年】	2月19日(月)	常任理事会	東京・私学会館
	3月11日(月)	理事会	東京・私学会館
	5月22日(水)	定時総会	東京・私学会館

◎研修会

【令和6年】	1月22日(月)	認定子ども園委員会全国研修会	青森・八戸市
--------	----------	----------------	--------

※会合の日程は変更になる場合がございます。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

園長も職員も、みんなで学べる・話せる誌面をお届けします

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

「こどもまんなか社会」に向け、選ばれる魅力ある園づくりに役立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「乳児保育」「小学校との接続」など必須の情報をお届けします。

B5判 72ページ 定価 1,200円(本体 1,091円+税 10%)

「ICT活用術」
「働き方改革」など、
注目テーマも掲載！

誌面と
連動した動画を
毎月配信！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 子育て支援事業部 営業推進チームまで

キンダーブックの **フーベル館**